



第36回 市民書道展（5月21日）

主な内容

- | | |
|------------------------------|----|
| ■ 小池清彦市長の市政報告
・就任御挨拶..... | ②⑦ |
| ■ 成人式に260名が出席..... | ⑧⑨ |
| ■ 加茂地区就職ガイダンス 2016 | ⑩ |
| ■ 春の叙勲 | ⑪ |
| ■ 中学生武道授業見学会を実施 | ⑫ |
| ■ 加茂の風土記「下条尋常高等小学校校歌」 | ⑯ |

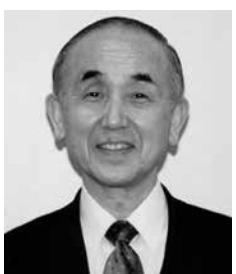
今が最後のチャンス！

新加茂病院に病児・病後児保育施設を！

新加茂病院に産科の個室がそろった産科を！

産科の個室が1つでは、妊婦が来なくなり、産科は閉鎖されます。

市政報告



加茂市長

小池清彦

就任御挨拶

四月二十六日に行われた市長選挙に当選させていただき、五月十日、六期目の任期に就任いたしました。

市民の皆様の温かい御恩情に心から感謝申し上げます。

当選させていたきました以上は、全

力を挙げて、お一人おひとりの市民の皆様をお幸せにするために邁進する決意でございます。

新築される加茂病院は、六十年以上建

て替えることはできません。今後の増築スペースの地積は、広くはありません。病児・病後児保育施設は、設計の中に入つておらず、新病院の開院と同時に開園できません。

個室が一つの産科は、妊婦が来なくなり、閉鎖されてしまします。

市民の皆様！

今が最後のチャンスです！

私は、政治的生命を賭して、立派な加茂病院をつくるため、奮闘する決意でございます。

次に、このたびの六期目の公約は、次のとおりでございますので、何とぞ御指導御鞭撻くださいますよう心からお願ひ申し上げます。

六期目の公約

が認められた。残りの四項目の実現をめざす。

みんなで市民中心の真の民主的市政を守りましよう！

加茂市にさらに大きな夢と常に新しい風を！

日本一の市政の水準を堅持する！

建て替え、新築の加茂病院を最高の病院に！

独立を守つた小京都加茂市万歳！

加茂市は燐然と輝く！

○ 真の民主的市政を推進し、市民と市長の

よもやま話を活発に行う。

○ 市民の皆様お一人おひとりを大切にし、

幸せにする市政を推進する。

○ 日本一の市政の水準を堅持する。

○ 合併で消滅せず存続した加茂市をさらに

燐然と輝かせる。

○ 建て替えられる新築の加茂病院の基本設
計に対し、十項目の要望を出し、六項目

(1)認められた四項目

①病児・病後児施設の併設。

②平成園、第二平成園、第三平成園へ
加茂病院からの往診。

③麻酔科の設置。

④病室冷暖房の一晩中作動。

(2)長い目で見て認められた二項目

①P E T - C T （全身の「がん」の部位
が光る）の設置。

②人工透析の実施。

(3)現在県当局と折衝中の四項目

①六階の「多目的ラウンジ」は別として、「四階建て一部五階建て」を「完
全五階建て」に近いものに拡大する。

②産科の個室の病室が四室以下しかな
いのは適当でない。個室を二十室以
上とする。

③療養病床を二十床増やして五十床と
し、緩和ケア病床を三十床新設する
のはよいが、その分一般病床を五十
床減らす。

床減らすのは適当でない。一般病床百五十床を堅持し、合計五十床増や

して二百三十床とする。
④十五の診療科のすべてに常勤医師を配置する。

○地方創生政策を推進する。

三十%のプレミアム商品券（一万円で一万三千円の買物）を各戸に割当てる。

○大企業の誘致等に努める。（特区の創設）
○第四平成園の構想の策定の準備をする。

○新町雁木通り商店街の整備を推進する。

川上流の拡幅を行う。堆積した中洲の土を全部取つてもらうよう全力を尽くす。

信濃川右岸の山島から天神林までの百メートルの土手のかさ上げを行う。

○日本一の福祉、子ども福祉、健康施策の水準を堅持する。

○日本一の商工業支援の水準を堅持する。
○日本一の農業支援の水準を堅持する。

○日本一の自然環境保全の水準を堅持する。

○日本一のスクールバスの体制を堅持
高い教育の水準を堅持する。

○女性が安心して子供を産み育てることがで
きる加茂市をつくるため、全力を尽くす。

○消防・救急の充実に努め、四台の高規格救急車をしつかり運行する。

○労働界と緊密に連携し、働く方々のお幸

○市民バスの運行を十分に行う。猿毛一八幡
せのために一生懸命支援する。

○好評の六つのコミュニティセンターと、
「加茂病院」加茂駅の路線の開設をめざす

かも川荘、ゆきつばき荘、並びに
る「百円風呂」を快適に運営する。

○平成二十四年度から中学校で武道が必修となつたので、生徒各位が安心して授業を受けられるよう、多種目から選択できる武道の授業を行う。

○加茂市の奨学金を十分に提供する。
○高校三年生までの医療費を入院完

中学三年（一部高校三年）までを通院原則無料とする県内トップの水準を堅持する

- ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、日本脳炎ワクチン、水痘のワクチン接種を無料で行う。インフルエンザ予防接種の六十五歳以上及び幼児・児童の一回目を無料で行う。妊娠希望の女性等に対し、風しんワクチン接種と抗体検査を無料で行う。
- 在宅介護料・看護料の無料を堅持する。
- 県下二十市中最低の保育料を堅持する。
- 県下二十市中最低の水道料を堅持する。
- 県下二十市中最低の介護保険料を堅持する。
- 健康診断をしつかりと行い、人工透析を支援する。
- 白血病治療の骨髄移植ドナーの入院・通院を強力に助成する。
- 小京都加茂の新しいシンボル加茂大橋をしつかりと維持運営する。
- 信濃川の堤防のかさ上げという千年に一度の好機に両岸の土手に対面通行できる市道を整備した。河川敷に桃の花の公園を整備する。

- 国県と協力して最新の洪水ハザードマップを作成し、地震・水害等緊急事態の対策を進める。
- 加茂市が採用した防災同報無線であるNTTエリアメールを円滑に運営する。
- 小中学校の耐震化工事を推進する。
- 加茂警察署の廃止を断固阻止する。
- 国道四〇三号バイパスの早期整備を推進する。加茂大橋建設にかけていたお金が、今後は、全部国道四〇三号バイパスへ来るよう全力を尽くす。
- 企業を守り、支援する。
- 企業に対する融資、無担保無保証人の小口融資をしつかり行う。
- 加茂市の商店街を守るため、郊外型大型店の新規出店を阻止する条例を堅持する。
- 農機具購入費助成を行い、農家を守り抜く。
- 県道出戸村松線の整備を推進する。
- 若宮公園横断道路をしつかりと維持運営する。
- 若宮町・長福寺間を含む県道天神林上条線の整備を推進する。

- 都ヶ丘と学校町を結ぶ幹線道路の建設を行う。
- 市道黒水土倉線のさらなる整備を常に念頭におく。
- 黒水の堰の川の分水の建設を推進する。
- 須田の広域農道の整備を推進する。
- 林道今滝冬鳥越線の整備を完了した。新規大型の林道大皆川線を完成する。
- 下水道を着実に整備する。
- 加茂市中が栗ヶ岳の水が飲めるようになつたが、水道事業を円滑に推進する。
- 体操トレーニングセンターで体操選手の育成の強化を図る。新体操教室も支援する。
- 温水プールやサッカーフィールドをはじめ、各種のスポーツ施設の利用を盛んにし、スポーツを振興し、選手の育成の強化を図る。
- 西小学校の建設をめざすことを常に念頭におく。西小学校で複式授業とならないよう措置する。
- 知的障害者援護施設の建設をめざすことを常に念頭におく。

- 文化会館では、極力国の資金を利用して、常に世界と日本のトップアーティストの招聘に努める。
- シルバー人材センターをしっかりと支援する。
- 加茂市史の刊行を円滑に推進する。
- 伝統文化子供教室を支援する。
- 加茂市のトップ・セールスマンとして、桐タンス、建具、金属製品、果物、米、野菜、酒、菓子、白玉粉等の地場産品の販路拡大に努める。
- 美人の湯を豊かに運営する。
- 加茂山公園、冬鳥越スキー場、下条川ダム公園、栗ヶ岳県民休養地、若宮公園、二万年前旧石器公園その他の公園を豊かに運営する。
- 五番町のにいつフレドセンターを含む地域交流センターと中央コミュニケーションセンターを円滑に運営する。
- 西加茂等において、豪雨のときに浸水が起らぬようにするため、常に全力を尽くす。

○子ども達に熊除けの鈴を無料配布し、市民の皆様にも販売する。

○道路、水路をはじめ万般にわたり市民の皆様の御要望は、すべて実現することを期する。

○国・県とのパイプをますます太くし、国・県の資金を大量に導入して豊かな市政を運営する。

○先般制定された国民保護法は、有事の際住民を戦闘に巻き込み、沖縄戦と同じことになる。加茂市は、「戦時平和都市宣言」を行い、赤十字の旗十万本を立て並べて、ジュネーブ条約によって市民の安全を確保することが最善の策であると考える。

○自主防災組織は自主防衛組織（警防団）をめざすものであり危険である。加茂市は消防団の組織力と建設会社の機械力によつて、災害に対処し、成果を上げている。○田上町との合併を強く主張する人達は、その後三条市に合併されることを狙つている。うかつに乗つてはならない。

○平和憲法を守り、集団的自衛権の憲法上の容認に反対し、海外派兵と徴兵制を阻止する。

2015 加茂市成人式



新成人は平成22年3月 中学校を卒業した皆さん

五月三日、文化会館で成人式が開催されました。今年の成人式に出席したのは、平成六年四月二日から平成七年四月一日までに生まれた人たちで、平成二十二年三月に中学校を卒業した三百四十名です。平成六年は、大江健三郎さんのノーベル文学賞受賞、英仏海峡トンネル開通などがありました。

当日二百六十人が出席した式典で小池清彦加茂市長は、新成人へ東洋哲学の易経から「天行は健なり、君子以て自彊して息まず。」と、論語の中から「仁以て己が任と為す。」の二つの言葉を贈りお祝いしました。そして、日本が抱える少子化問題について、育児休業三年を実施することで若い世代の皆さんのが安心して子育てできることを話しました。

また、「平和憲法があつたからこそ、日本は、海外派兵をさせられずに済んだ。集団的自衛権の憲法上の容認は、憲法改正と同じことになり、やがて日本人は、徴兵制の下で海外の戦闘で血を流し続



市内小中学校卒業・在住の340人のうち260人の新成人が参加



司会をする茂野玲さんと波塚崇宏さん



二十歳の誓いを述べる市川寛之さん



小池清彦加茂市長



三浦伸一教育委員長



各中学校ごとに記念撮影

新成人を代表して、市川寛之さんが「これまでおおぜいの人から支えられてきましたが、これからはたくさんの人や地域を支えるよう責任を持った立場として貢献していくきます。」と二十歳の誓いを述べました。

このあと、各卒業中学校ごとに記念撮影し、産業センターでの立食パーティーで同級生との再会を楽しみました。



式典後の産業センターで立食パーティー



晴天に恵まれた 5月 3日の成人式



五月十九日、産業センターで大学、短大、専門学校の卒業予定者と卒業してから三年以内の既卒者を対象に、来年度採用予定の企業説明会が開催されました。三回目となる今回、会場には県央地区を中心に三十二社（二十九ブース）の参加があり、卒業を前にした大切な就職活動の機会となりました。

はじめに小池清彦加茂市長は「県央地域の企業の採用活動は好調と聞いています。学生の皆さんには自分の希望にかなうよう積極的に企業担当者と話してください。」とあいさつしました。続いてハロ

ーワーク三条の奈良橋所長から

「県内では求人倍率、学生の就職内定率ともに改善しています。学生の皆さんは地元就職の機会として、企業の皆さんには優秀な人材採用の場となるよう願っています。」と話されました。

各企業ブースでは、取り扱う製

品やサービス内容がパソコン画面に紹介されたりしていました。学生からは、採用職種や必要な資格についての質問が交わされていました。

加茂市では、七月に新規高校卒業予定者を対象に企業説明会を開催する予定です。



春 の 叙 勳

春の叙勲に、加茂市から三名の方が受章されました。消防活動、統計調査で長年の活動によるものです。受章についての感想をお聞きしました。

瑞宝双光章

(消防功労)



中林和芳さん
(青海町1・66歳)

瑞宝单光章

(消防功労)



各務九二一さん
(下興屋向・74歳)

現在、コミュニティセンターに勤務していますが、バイクでツーリングに出かけるなど、休日を楽しんでいると話していただきました。

「力強さ」と「人と人がつながること」の大切さを教えられたそうです。「訓練を重ねて、どんな場面でも速やかに対応すること」と先輩から引き継ぎました。また、消防職員として約半分は予防関係業務を担当し、防火対策や消防設備の向上のため、様々な工場や建築物を訪問しました。

現在、コミュニティセンターに勤務していますが、バイクでツーリングに出かけるなど、休日を楽しんでいると話していただきました。

四十四年の水害では、下条川の川幅も狭く、瞬く間に水があふれてしまったので、団員だけでなく地域の人たちと支え合ったといいます。

昭和三十七年から各種統計調査に携わってきた中野さんは、今回受章に「平成十二年に藍綬褒章をいたいでいるのになんでどうう」という思いと「大勢の方々からご協力いただいていることに感謝し、大変ありがとうございます」と感想を話されます。

調査員として大切にしていることは「健康」と「勉強」といい、調査票の配付・回収の時間を守るために健康を、内容を聞かれたら正しく答えられるよう、常に勉強することといいます。そして工業統計調査では四十五回を数え、担当地区の事業所から記入方法について相談を受けたりします。

中野さんは、昭和三十七年から三十七年間、消防団活動にたずさわり、平成四年から本部付分団長、消防団予防部長を務めました。受章の知らせには、「災害から地域を守ることが当然」と思っていた。

中林さんは、昭和四十四年から四十年間、消防職員として勤務されました。受章について「先輩、同僚、後輩との連携と消防団や地域の皆さんから助けられたという思い、それと家族の協力のおかげです。」と感想を述べられます。

採用された年の八月の大水害では、先輩署員・団員からの指示の

各務さんは、昭和三十七年から三十七年間、消防団活動にたずさわり、平成四年から本部付分団長、消防団予防部長を務めました。受

章の知らせには、「災害から地域を守ることが当然」と思っていた。

中野さんは、昭和三十七年から三十七年間、消防団活動にたずさわり、平成四年から本部付分団長、消防団予防部長を務めました。受

瑞宝单光章

(統計調査功労)



中野保榮さん
(八幡1・83歳)



中学生保健体育授業見学会 今年で7年目の実施



六種目から生徒が選択

五月八日、市内中学校の保健体育授業で行われる武道の種目を選択するための見学会が行われました。

六年目となる今年、文化会館に市内五校の中学生約七百二十人が集まり、六種目の演武を見学しました。加茂市は授業中の事故やけがを防ぐため、各種目の指導者から授業の講師を務めていただいています。

選択種目は、柔道、剣道、合気道、空手道、柳生新陰流剣道、な

ぎなたの六種目で、この見学会では十月に行われる授業で指導される講師から模範演技を披露していました。選択種目は生徒自身が自分の合った種目を決めることがになっており、道着や用具は市が用意したものを使用することになります。

この見学会の後、生徒一人ひとりの希望をとり、十月に下条体育センターで曜日ごとに各校の生徒が集まつて授業が行われます。

カメラ☆スケッチ

春季消防演習（5月17日）

演習には、消防団第一分団から第七分団の団員四百一名と車両三十二台、加茂地域消防署が参加しました。部隊訓練、救助訓練、そして若宮町の皆さんによる初期消火訓練が加茂小学校グラウンドで、穀町大通りで分行進、加茂川河川敷で放水訓練が行われました。消火器を使った初期消火訓練では「初めて消火器を使って、とてもいい体験ができた」という感想が聞かれました。



大会結果

第35回全日本学童軟式野球大会中越大会予選会

期 日 4月29日・5月4日

会 場 七谷野球場

出 場 チーム

優 勝 下条ファイターズ

準 優 勝 田上ベースボールクラブ

第67回加茂市少年野球大会

期 日 4月29日

会 場 七谷・羽生田野球場

出 場 チーム

優 勝 加茂中学校

準 優 勝 葵中学校

大通り春まつり（5月3日）

駅前・穀町の大通りを歩行者専用にしてミニSLや露店、バルーンアートに大勢の皆さんからおいでいただきました。

謎の多い

下条尋常高等小学校校歌

加茂の風土記

昭和59年に渡辺 寿が採譜した初代校歌楽譜



一
流れも清き 下条川
嵐も吹かぬ 神明山
川と よどまぬ 心もて
山と 動かぬ みさおたて
朝な 夕なに はげみ合い
み親 ふみきし 道ゆかん
家並みに響く わら打つ音
田毎に なびく (垂穂穂)
大なわ 小なわ うず高く
ながみけ 遠みけ 美わしく
日につぎ 月に打ちそえて
み國の富の 基たてん

（下条小学校所蔵「沿革史」）

No.七〇三一) (長谷川昭一)
歌詞と楽譜は、昭和五十九年に
卒業生から聴き取り採詞・採譜し
たものが学校に残つてい
る。採詞者は市内桜沢在住
の坪谷イタル元教諭で七月
に実施された。採譜者は当
時下条小学校で音楽を教え
ていた渡辺寿で十一月に行
われたと思われる。なお、
二番の歌詞の「垂穂穂」を

人口のうごき

5月1日現在

世帯	10,309	(+21)
人口	28,981	(-19)
男	14,030	(+ 3)
女	14,951	(-22)
() 内は前月比		
(4月異動分)		
出生	11	(男3女8)
死亡	23	(男10女13)
転出	65	転入 58

下条小学校では、これまで三曲の校歌が作られた市内で唯一の学校である。戦前に歌われていた初代校歌に続いて、戦後創立八十周年記念に二代目、昭和五十八年（一九八三）の創立百十周年に作られた三代目校歌が現在歌われている。

初代校歌は、制定の経過や制定年ばかりでなく作詞者や作曲者も伝わらず謎が多い。「歌詞も歌曲も記録がなく、僅かに口伝えにされている程度であるうえ、その歌詞は新しい時代にふさわしいとは考えられない」と「下条小学校沿革史綴」が記すのみである。

下条小学校の中では他には記録が全然ない。記録が全くないことは珍しいことではないが、旧校歌の楽譜が学校に伝わらなければ珍しいことではないが、

下条小学校のような例は、市内の校歌の中では他には記録が全くない。記録が全くないことは珍しいことではないが、

下条小学校のような例は、市内の校歌の中では他には記録が全くない。記録が全くないことは珍しいことではないが、

社会福祉事業費
▼加茂市場推進会から 三万円

市内小中学校へ

▼株式会社第四銀行・株式会社ピュアライフから スノーボード、デジタルビデオ用アクセサリーセット、パソコン用機器など

ありがと・つ